

(2012年度)

### 3 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は15ページ、4問である。)

#### 受験についての注意

1. 監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
2. 携帯電話・PHSの電源は切ること。
3. 試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机の上に置くこと。
4. 監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
7. マークをするとき、枠からはみ出したり、枠のなかに白い部分を残したり、文字や番号、枠などに○や×をつけたりしてはならない。
8. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
10. 試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 以下に掲げた史料A～Gは、日本古代の東国に関係するものである。よく読んで、下記の問いに答えなさい。

- A 武蔵国造<sup>(a)</sup>笠原直使主と同族小杵と、国造を相争ひて、……年経るに決め難し。小杵……密に就きて援を上毛野君小熊に求む。而して使主を殺さむと謀る。使主覚りて走げ出づ。京に詣でて状を言<sup>もう</sup>す。朝庭臨断<sup>つみさだ</sup>めたまひて、使主を以て国造とす。小杵<sup>こら</sup>を誅す。国造使主……謹みて国家の為に、横湊・橘花・多氷<sup>よこめ たちばな おお</sup>、倉櫓<sup>くらす</sup>、四处の  を置き奉る。
- B 三の君の夫は、 権介<sup>ごんのすけ</sup>田中豊益<sup>ひとえ</sup>、偏に耕農を業と為して、更に他の計<sup>はかりごと</sup>なし。数町の戸主、大名の  なり。
- C 韓衣<sup>からころも</sup> 裾に取りつき 泣く子を 置きてそ来ぬや 母なしにして
- D (寛治五年)六月十二日、宣旨を五畿七道に給ひ、前陸奥守義家<sup>(c)</sup>、兵を随へて京<sup>(b)</sup>に入ること、并せて諸国の百姓、田畠の公驗<sup>(d)</sup>を以て好みて義家朝臣に寄する事を停止す。件の由緒は、藤原実清と清原則清と河内国の領所を相論するの間、義家朝臣と舎弟義綱と権<sup>たがい</sup>を互にし、両方威を争ふの間、攻伐を企てむと欲すなり。天下の騒動、此より大なるは莫し。
- E 夫れ錢の用なるは、財<sup>かよわ</sup>を通して有無を貿易<sup>ゆえ</sup>する所以なり。当今、百姓なお習俗に迷ひて未だ其の理を解せず。僅に売買<sup>わすか</sup>すと雖も、猶ほ錢を蓄<sup>いそど</sup>ふる者<sup>な</sup>無し。其の多少に随ひて節級して位を授けよ。其れ従六位以下、蓄錢一十貫以上有る者には、位一階を進めて叙せよ。廿貫以上には二階を進めて叙せよ。
- F 将門<sup>(e)</sup>、同月十五日を以て上毛野<sup>(f)</sup>に遷<sup>ついで</sup>次に、上毛野介藤原尚範朝臣、印鑑を奪はれ、十九日を以て、兼ねて使を付けて官堵に追ふ。その後、府を領し庁に入り、四門の陣を固めて、且つ諸国の除目<sup>(g)</sup>を放つ。時に一の昌伎<sup>かなぎ</sup>あり、云へらく、 の使と憤る。「朕が位を蔭子平将門に授け奉る。……」
- G 多摩川に 曝<sup>さら</sup>す手作 さらさらに 何ぞこの児の ここだ悲しき<sup>(h)</sup>

問1 史料A～Gは、それぞれある文献の一部を抜き出したものである。それぞれ何という文献か、もっとも適切なものを次の語群から選びなさい。なお、1つの番号を何度使ってもよい。

[語群]

- ① 『日本書紀』      ② 『新猿樂記』      ③ 『新古今和歌集』  
④ 『懷風藻』      ⑤ 『続日本紀』      ⑥ 『陸奥話記』  
⑦ 『日本三代実録』      ⑧ 『将門記』      ⑨ 『百練抄』  
⑩ 『万葉集』

問2 史料A～Gの下線部(a)～(h), 空欄  ア  ～  エ  について, 以下の問いに答えなさい。

(1) 史料Aは, 安閑天皇の治世に起きた事件として書物に記録があり, 6世紀のヤマト政権が, 大王を中心とした専制体制へ支配力を強めてゆく過程で, 独立性を維持しようとする地方豪族らの反抗を招いたものと考えられている。それと同種の事件と位置づけられているものを, 次から1つ選びなさい。

- ① 乙巳の変      ② 磐井の乱      ③ 壬申の乱      ④ 白村江の戦い

(2) 下線部(a)について, 空欄  に同一の語句「国造」が当てはまる史料を, 次から1つ選びなさい。

- ① 其の二に曰く, 初めて京師を修め, 畿内・  ・郡司・関塞・斥候・防人・馭馬・伝馬を置き, 鈴契を造り, 山河を定めよ。[「改新の詔」]
- ② 凡そ戸は, 五十戸を以て里と為よ。里毎に  一人置け。[「養老令」]
- ③ 封国は偏遠にして, 藩を外に作す。昔より  自ら甲冑を撰き, 山川を跋涉して寧処に違あらず。[「倭王武の上表文」]
- ④ 十二に曰く, 国司・  , 百姓に斂ること勿れ。[「憲法十七条」]

- (3) 空欄  に当てはまる語句の説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。
- ① 収穫物を納める倉庫(御宅)から転じ、広く朝廷の直轄地のことをいう。
  - ② 大化改新前の豪族の私有地で、部曲によって耕作された。
  - ③ 天皇に蔬菜などを納める直轄領で、大和(倭)国に6つあった。
  - ④ 白村江の敗戦後、朝鮮の技術の影響下に、九州北部から瀬戸内海周辺に土塁・石垣で築かれた山城。
- (4) 空欄  には、現在の秋田県から山形県にまたがる古代の国名が当てはまるが、それは何国か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。
- ① 出羽      ② 陸奥      ③ 磐城      ④ 岩代
- (5) 空欄  に当てはまる語句の説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。
- ① 任国に赴く国司の最上席者で、普通は守または介をいう。
  - ② 地方国衙において各種の所の実務を分掌し、判官代・録事代などとなって下級役人を監督する身分のこと。
  - ③ 10～11世紀頃に出現した公領・荘園の田地の耕作請負人で、多くの下人を抱えて大規模な経営を行う者もあった。
  - ④ 律令の再建が目指された9世紀頃、模範的官人とされた国司などを指す。藤原保則らが有名。
- (6) 史料Cは、770年頃に成立したある歌集に含まれている、東国出身の人物が詠んだと思われる歌で、故郷に残してきた子供たちを心配する内容となっている。このような歌を何と呼ぶか、もっとも適切なものを次から1つ選びなさい。
- ① 挽歌      ② 行路死人歌      ③ 東歌      ④ 防人歌

- (7) 下線部(b)の元号は、どの天皇の治世であったか。該当する天皇の説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。
- ① 父の院政のもとで善政を行い、「末代の賢王」と呼ばれた。
  - ② 崇徳上皇と不和で、保元の乱の一因をなした。
  - ③ 村上源氏の源師房を右大臣に登用した。
  - ④ 大江匡房らを寄人とする記録荘園券契所を設置した。
- (8) 下線部(c)の人物が関わったある合戦が、この4年前(寛治元年)に終結している。その説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。
- ① 陸奥の土豪安倍頼時が藤原経清らと国司に反抗し、この人物とその父親とが清原氏の協力を得て平定した。
  - ② 高望王の曾孫平忠常が、上総介・武蔵国押領使となり、反乱を起こして房総を占拠したが、この人物の祖父に降伏した。
  - ③ この人物が清原氏の相続争いに介入し、藤原清衡を助けて清原氏を金沢柵に滅ぼした。
  - ④ この人物とその弟とが郎等の所領争いを契機に対立、合戦を始めようとした。
- (9) 下線部(d)の説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。
- ① 平安中期以降の公領の貢納物で、租調庸制の変質したもの。
  - ② 班田収授の際に作成された地図で、校田図と班田図からなる。
  - ③ 官から下付される証明書で、多くは土地の所有権に関する証拠文書。
  - ④ 土地の豊穰を保証した有力寺社の呪符。
- (10) 史料Eの法令は、武蔵国からの銅の献上による改元後、発行されたある貨幣の流通を促進する目的を持っていた。その貨幣の名称は何か、もっとも適切なものを次から1つ選びなさい。
- ① 和同開珎      ② 万年通宝      ③ 神功開宝      ④ 富寿神宝

(11) 下線部(e)の人物の系図上の位置を正しく説明したものを、次から1つ選びなさい。

- ① 高見王の孫に当たる。
- ② 高望王の孫に当たる。
- ③ 平国香の従弟に当たる。
- ④ 平忠常の伯父に当たる。

(12) 下線部(f)の国が、東山道において境を接する国名を、次から3つ選びなさい。

- ① 飛驒国    ② 信濃国    ③ 下野国    ④ 陸奥国    ⑤ 越前国
- ⑥ 越中国    ⑦ 越後国    ⑧ 出羽国    ⑨ 甲斐国    ⑩ 相模国
- ⑪ 武蔵国    ⑫ 常陸国

(13) 下線部(g)は、平将門のどのような行動を指しているか。その説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 坂東諸国の国司に捕縛されていた私兵を解放した。
- ② 坂東諸国の国司の目代を追放した。
- ③ 坂東諸国の国司に軍兵を集結させるよう命令した。
- ④ 坂東諸国の国司を勝手に任命してしまった。

(14) 空欄 

エ
---

 には、後に源氏の守護神とされるある武神の名称が当てはまる。もっとも適切な名称を、次から1つ選びなさい。

- ① 天照皇太神    ② 天満天神    ③ 八幡大菩薩    ④ 鹿島大明神

(15) 下線部(h)の説明としてもっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 天皇の子孫。
- ② 親王の子孫。
- ③ 三位以上の貴族の子。
- ④ 五位以上の貴族の子。

16) 史料Gは、770年頃に成立したある歌集に含まれている東国の民謡である。このような歌を何と呼ぶか、もっとも適切な語句を次から1つ選びなさい。

- ① 挽歌    ② 行路死人歌    ③ 東歌    ④ 防人歌

2) 次の文章を読んで設問に答えなさい。

鎌倉幕府成立期の将軍独裁体制から、有力御家人の北条氏による執権政治へ移行する過程において、朝廷と幕府の力関係には大きな変化が見られた。中でも朝廷に対する幕府の優位性を決定付けた出来事が承久の乱である。この戦乱の結果、( a )天皇の擁立、3上皇の配流、<sup>(1)</sup>所領の没収などで朝廷方の勢力は著しく低下した。それまで幕府の支配が及んでいなかった西国の公領・荘園にも( ア )が任命され、朝廷の監視と尾張国以西の御家人の統括のために( イ )が設けられた。その後、北条( b )が死去して長男の( c )が執権になると、連署のほか11名の( ウ )を選んで合議制に基づく政治体制を確立し、1232年には御成敗式目を制定した。さらに5代執権の( d )が敵対勢力を滅ぼし、<sup>(2)</sup>皇族将軍( e )を迎えると、北条氏による独裁はより強固なものとなった。<sup>(3)</sup>

一方、平安末期から鎌倉時代にかけて宗教世界に目を投じると、精神生活に新たな気運が生まれ、武士や庶民などの階層にも仏教が広がった。政治や社会の不安の中で、浄土教系の諸宗派、日蓮宗、禅宗などの新しい宗派が創出され、念仏・<sup>(4)</sup>( エ )・坐禅をそれぞれ独自の修行方法に定め、救済の道とした。このような新仏教に触発されて旧仏教側の改革も行われ、戒律の復興に努めるとともに、叡尊やその弟子の( f )など慈善救済事業に尽力する僧侶も現れた。ちなみに、( f )は病者のために奈良に北山十八軒戸を建て、鎌倉では( オ )を宗教活動の拠点とした。

問1 空欄(ア)～(オ)に入る言葉を、次から1つずつ選びなさい。

- ① 加持祈禱      ② 西大寺      ③ 公案      ④ 西面の武士
- ⑤ 評定衆      ⑥ 題目      ⑦ 本補地頭      ⑧ 鎮西奉行
- ⑨ 新補地頭      ⑩ 引付衆      ⑪ 極楽寺      ⑫ 曼荼羅
- ⑬ 記録所      ⑭ 建長寺      ⑮ 六波羅探題

問2 空欄(a)～(f)に入る正しい人名を、次から1つずつ選びなさい。

- ① 仲恭      ② 守邦親王      ③ 時房      ④ 義時
- ⑤ 明恵      ⑥ 時政      ⑦ 後醍醐      ⑧ 貞慶
- ⑨ 宗尊親王      ⑩ 後堀河      ⑪ 重時      ⑫ 泰時
- ⑬ 久明親王      ⑭ 高時      ⑮ 時頼      ⑯ 順徳
- ⑰ 時宗      ⑱ 忍性

問3 下線部(1)に関して、佐渡に流されたのはどの上皇か、正しい人名を次の中から1つ選びなさい。

- ① 後鳥羽      ② 後白河      ③ 土御門      ④ 順徳      ⑤ 高倉

問4 下線部(2)に関して、次にあるAとBの文章の空欄(カ)～(コ)に入る正しい言葉を語群Iの①～⑮より選びなさい。

A 第3条には諸国の(カ)の基本的権限である大犯三カ条が規定されており、第5条には諸国の地頭の(キ)抑留が禁じられている。また、第23条の女人養子については、律令の趣旨からすれば認められないが、武家社会では(ク)以来の先例であり、不易の法であるとしている。

B 御成敗式目の趣旨に関して、第3代執権が弟の六波羅探題(ケ)に書き送った書簡には、この式目が(コ)とよばれる武家社会の慣習・道徳に基づいて制定された法であり、身分の差にかかわらず公平な裁定をくだす基準であることが述べられている。



〔語群Ⅰ〕

- ① 経時      ② 実泰      ③ 重時      ④ 武士道  
⑤ 分国法    ⑥ 道理      ⑦ 謀反人    ⑧ 殺害人  
⑨ 年貢      ⑩ 守護大名   ⑪ 守護      ⑫ 守護代  
⑬ 得宗家    ⑭ 皇族将軍   ⑮ 右大将家

問5 下線部(3)に関して、このときの合戦によってある一族が滅亡するが、それは何氏か。

- ① 比企      ② 平賀      ③ 和田      ④ 三浦      ⑤ 安達

問6 下線部(4)に関して、次にあるC、D、Eの文章の空欄(サ)～(チ)に入る正しい言葉を語群Ⅱの①～④より選びなさい。

C 『現代でも人気の高い『歎異抄』は、師の口伝に異説の多いことを嘆いて弟子の(サ)が著したものとされている。その第2条に、「たとひ(シ)上人にすかされまいらせて、念仏して(ス)におちたりとも、さらに後悔すべからずさふらふ。」とあり、念仏の重要性とともに、(シ)への深い信頼が読み取れる。

D 『立正安国論』は、日蓮が1260年に前執権(セ)に提出した建白書で、正しい教えである法華経を信じ、念仏などの邪法を禁じなければ、国内の内乱が相次ぎ外国からの侵略を受けることが予言されている。これが他宗の人々の反発を招き、翌年の(ソ)流罪の原因となった。

E 1227年中国から帰国した道元は曹洞禅を伝えたが、比叡山の圧迫を受け、京都から(タ)に活動の場を移し、そこに永平寺を開いて曹洞宗の中心道場とした。なお、新仏教の多くは(チ)思想を肯定しているが、『正法眼蔵随聞記』には「今は云く、この言ふことは、全く非なり。仏法に正像末を立つ事、しばらく一途の方便なり。真実の教道はしかあらず。」(大意要約)とあり、(チ)は方便にすぎないと否定されている。

〔語群Ⅱ〕

- |        |      |       |        |       |
|--------|------|-------|--------|-------|
| ① 罪業   | ② 蓮如 | ③ 明恵  | ④ 北条早雲 | ⑤ 畜生道 |
| ⑥ 法然   | ⑦ 親鸞 | ⑧ 勧進  | ⑨ 地獄   | ⑩ 懷奘  |
| ⑪ 北条時頼 | ⑫ 越前 | ⑬ 餓鬼道 | ⑭ 北条泰時 | ⑮ 伊豆  |
| ⑯ 佐渡   | ⑰ 能登 | ⑱ 成仏  | ⑲ 輪廻   | ⑳ 末法  |
| ㉑ 加賀   | ㉒ 安房 | ㉓ 唯円  | ㉔ 正法   |       |

3

以下の文章は、近世の村について述べたものである。設問に答えなさい。

村は、百姓の家屋数が複数で形成した集落を中心に、田畑の耕作や野・山・浜を含む広領域をもつ共同体である。近世の村の起源は秀吉政権以後、徳川政権において継承された兵農分離政策と検地によって、それまでの惣村や郷村を分割(村切り)してつくられた。17世紀末には全国の村数が( A )余りを数えるようになった。

村には( B ) [村の長・西国では( C )、東北では肝煎などとよばれた]や( D ) [長の補佐]・( E ) [年貢徴収などの際に立ち会う村民代表]からなる村役人である( F ) 三役を中心とする( G ) によって運営された。入会地の共同利用、用水や山野の管理、治安や防災などの仕事が自主的にこなされた。村民は田植え・屋根葺など大勢の労働を必要とする時に親類や近隣で行う共同作業としての( H ) などと呼ばれる共同作業を集中的におこなって、労働や暮らしを支えあった。

村の運営は( I ) に基づいて行われ、その違反者に対しては、村や五人組の共同組織から排除される( J ) や組落ちなどの制裁が加えられた。こうした村の自治に依存してはじめて、幕府や諸藩・旗本は、年貢・諸役の割り当てや収納を実現し、村民を掌握することができたのである。このような仕組みを( K ) 制とよぶ。一つの村に複数の領主や知行主の支配が同時に存在する場合もあり、それは( L ) といった。

村内の構成をみると、そこにはいくつかの階層が区分された。中心を構成

したのは、( M )に登録された田・畑・家屋敷を持ち、年貢・諸役をつとめ、村政に参加する高持ともよばれる( G )である。田畑をもたず、小作を営み、日用の仕事に従事するものは( N )[無高]とよばれた。また、村の中心となったものと主従制のような隷属関係にある( O )[中世における名主の隷属民]・被官・譜代なども存在した。本家と分家のような血縁の序列や、漁村における( P )とその従属者のような階層区分もあった。村には百姓以外に、僧侶や神職などの宗教者、さらに職人や商人などが若干含まれる場合も多い。

百姓が課せられた負担としては、本田畑と屋敷にかけられる( Q )ともよばれる年貢がある。本年貢のほかに山野河海の利用や農業以外の副業などに( R )がかけられ、また一国単位で河川の土木工事の夫役労働などにかりたてられる( S )役や街道宿駅の公用交通に人や馬をさし出す( T )役、周辺の村々で宿駅の応援にかり出される( U )役などの負担も課せられた。

**問 I** 空欄( A )～( U )に該当する語句を以下の語群から選びなさい。

[語群]

- |          |            |            |            |
|----------|------------|------------|------------|
| (1) 組頭   | (2) 73,000 | (3) 63,000 | (4) 53,000 |
| (5) 離村   | (6) 村法(掟)  | (7) 地頭     | (8) 名主     |
| (9) 惣代   | (10) 庄屋    | (11) 本途物成  | (12) 沙汰人   |
| (13) 本百姓 | (14) 国     | (15) 座     | (16) 村八分   |
| (17) 村請  | (18) 水呑    | (19) 加持子   | (20) 網元    |
| (21) 強訴  | (22) 地下検断  | (23) 談合    | (24) 名子    |
| (25) 地侍  | (26) 相給    | (27) 宗門改め  | (28) 高礼    |
| (29) 検地帳 | (30) 村方    | (31) 百姓代   | (32) 結     |
| (33) 自検断 | (34) 郷     | (35) 伝馬    | (36) 下地中分  |
| (37) 勘定  | (38) 助郷    | (39) 本郷    | (40) 小物成   |

問2 文中(2～4行目)の下線部分に関して説明した次の文章の中で、下線を施した(ア)～(オ)の語句のうち、歴史記述として誤りのあるものがある。誤りの総数はいくつか。①～⑤の記号で答えなさい。

太閤検地は農民(百姓)身分と支配単位としての村を確定し、1588年の刀狩は農民の武器没収と耕作専念義務化を定めた。1589年のいわゆる「身分法令」<sup>(ア)</sup>(身分統制令)<sup>(イ)</sup>に示される農民の耕作放棄禁止などの措置を経て、年貢を徴収するものと年貢を納入するものの階級関係が確定された。秀吉の太閤就任以前のものも「太閤検地」とよばれることがあり、実際、1582年、明智光秀を破ったのち安芸<sup>(ウ)</sup>の国で実施されたものは「太閤検地」の開始とされている。しかし、秀吉は1580年にも、信長の奉行として甲斐<sup>(エ)</sup>の国で検地を行っていた。<sup>(オ)</sup>

- ① 1      ② 2      ③ 3      ④ 4      ⑤ 5

問3 次に掲げる法令名は近世の村について出されたものである。それぞれの内容として適切な説明を①～③から選びなさい。

- (1) 田畑永代売買の禁令  
(2) 分地制限令  
(3) 田畑勝手作りの禁

- ① 1643年に出されたもので、土地の兼併・百姓の没落防止のため、土地売買を禁止した。  
② 1643年に出されたもので、米作の減少を防止するため、五穀以外の商品作物栽培を禁止した。  
③ 1673年に出されたもので、百姓の没落防止のため、百姓は10石以下に割いての相続を禁止した。

4

次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。ただし、文章中で下線のついた語句(a)～(z)については一部に誤りがあり、結果として歴史的には正しくない文章となっている。

1954年において、昭和電工疑獄事件で内閣への批判が強まった中、与党から脱党者が出て、彼らによって民主党が結成された。そのため、同年の末、吉田茂内閣は総辞職し、鳩山一郎内閣が成立した。首相は、憲法改正・再軍備などをとளைた一方、野党の左右社会党は「逆コース」への批判が高まる中、党勢を拡大していき、中でも再軍備への反対の姿勢を打ち出した右派社会党は、労働組合である連合の支援をうけて議席をふやしていった。

1955年の総選挙において、社会党は、左右あわせて憲法改正の阻止に必要な3分の1以上の議席を確保し、10月には統一を実現して、委員長には浅沼稻次郎がついた。一方、保守陣営においても、財界からの強い要望もあって、11月に分裂していた保守政党が合同して、自由民主党を結成して、初代総裁には時の首相がついた。ここに2大政党制が形式的には成立したが、保守勢力が議席の3分の2前後を占め続ける一方、革新勢力は3分の1前後にとどまり続け、保革対立のもとでの保守一党優位の「55年体制」が1994年まで続くことになった。

保守合同後に成立した内閣は、防衛力増強を推進するため、防衛会議を発足させたり、憲法改正をめざして憲法調査会を設置した。他方、米国からの「自主外交」をうたってソ連との国交回復交渉を推進して、1956年10月には首相自らが訪ソし、ソ連のフルシチョフ首相とのあいだで日ソ共同声明に調印して、国交正常化をはたした。その結果として、日本の国際連合への加盟を拒否していたソ連が反対しなくなったので、同年末には日本の加盟が実現した。

この内閣が以上のことを行ったのをうけて総辞職したあと、石橋湛山が後継首相に就いたが、暗殺によって短命に終わった。そして、それをうけて成立した岸信介内閣は、「日米新時代」となえ、1951年に調印した安保条約を改定して日米関係をより対等なものとするをめぐらした。そして、交渉の結果、1960年1月に新安保条約が調印されたが、この条約においては米国の日本防衛義務が明文文化され、さらにこの条約の付属文書において在日米軍の日本および「極東」での軍事

行動に関する事後協議が定められた。それに対して、革新勢力は、安保改定反対運動を展開し、安保改定阻止国民会議を結成した。そして、衆議院における条約批准が政府・与党によって強行採決されたのをうけて、学生や一般市民も参加する巨大なデモが連日、国会を取り囲んだ。そのため、予定されていた米国大統領の訪日は中止されたが、条約の批准案は、参議院での議決を経ないまま、自然成立した。そして、それをうけて、内閣は、総辞職した。

同年、この内閣に代わって成立した池田勇人内閣は、「寛容と忍耐」をとなえて革新勢力との正面衝突をさけつつ、「所得倍増」をスローガンにして、すでにはじまっていた高度経済成長のいっそうの促進がなされた。また、この内閣は、「政経分離」という方針のもと、中国との貿易の拡大をめざして、1963年に交渉にあたった劉少奇と高碓達之助のあいだで交わされた覚書に基づいてLT貿易とよばれる準政府間貿易を行った。

問1 上記の文章中の下線のついた語句(a)～(z)について、それぞれを歴史的に見て正しいものを○、誤っているものを×で表記するとき、連続する2件[(a)と(b)、(c)と(d)など]の関係は、次の4通りとなる。

① ○○    ② ○×    ③ ×○    ④ ××

- (1) 下線部(a)と(b)の関係を、上記の①～④から選びなさい(以下同様)。
- (2) (c)と(d)
- (3) (e)と(f)
- (4) (g)と(h)
- (5) (i)と(j)
- (6) (k)と(l)
- (7) (m)と(n)
- (8) (o)と(p)
- (9) (q)と(r)
- (10) (s)と(t)
- (11) (u)と(v)
- (12) (w)と(x)
- (13) (y)と(z)

問2 上記の文章中の下線のついた語句(1)～(4)について、それぞれの問いにもっとも該当する答えを以下の中から1つ選びなさい。

(1) 吉田茂について、正しくない説明はどれか。

- ① 大蔵省の出身であった。
- ② 敗戦の翌年1946年に首相に就いていた。
- ③ 対米協調政策を維持した。
- ④ サンフランシスコ平和条約の締結で独立を回復した。

(2) 国際連合について、正しい説明はどれか。

- ① 第二次世界大戦中の1945年6月に発足した。
- ② 米英仏ソ加の五か国が発足当時、安全保障理事会の常任理事国となった。
- ③ 常任理事国には、安全保障理事会において拒否権が与えられている。
- ④ 日本は現在、安全保障理事会の常任理事国となっている。

(3) 米国大統領について、該当するのは誰か。

- ① トルーマン      ② アイゼンハワー
- ③ ケネディー      ④ ジョンソン

(4) 高度経済成長のいっそうの促進について、この政権期の事がらではないものはどれか。

- ① IMF 8 条国への移行      ② 東京オリンピックの開催
- ③ 東海道新幹線の開通      ④ 名神高速道路の開通

